

- (1) 会議名
令和2年度第2回北杜市環境保全基金活用検討委員会
- (2) 開催日時
令和2年11月6日(金)午後2時～午後3時30分
- (3) 開催場所
須玉ふれあい館 会議室
- (4) 出席者
委員
協力企業代表者 平山隆之
市民代表者 清水政英
市民代表者(代理) 岩下邦博
環境保全団体代表者 篠原充
環境保全団体代表者 跡部治賢
環境保全団体代表者(代理) 中村光良
環境保全団体代表者 増田直広
北杜市副市長 土屋裕
北杜市企画部長 清水博樹
事業所管課
林政課長 佐藤康弘
林政課林政担当リーダー 植松博仁
環境課新エネルギー推進担当リーダー 日向武彦
観光課観光振興担当リーダー 田中佐記子
観光課観光振興担当 浅川大樹
観光・商工課観光振興担当 天池栄子
商工・食農課食育・地産地消担当リーダー 田丸敬一
商工食農課食育・地産地消担当 上野亜弥
まちづくり推進課建築開発指導担当リーダー 渡邊勇人
須玉総合支所増富出張所課長 櫻井義文
事務局
政策推進課長 浅川豪
政策推進課政策調整担当リーダー 日向重貴
政策推進課政策調整担当 篠原振一郎
- (5) 議題
・令和3年度基金活用事業の予算について
・その他
- (6) 公開・非公開の別 公開
- (7) 傍聴人の数 0名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(事務局) 北杜市環境保全基金活用検討委員会設置要綱第6条の規定により、委員長が議長となることを説明する。

(議長) 傍聴希望者はなし。また、会議録署名委員を、跡部委員と増田委員とする。

(議長) 第1号議案の「令和3年度基金活用事業の予算について」、事務局の説明を求める。

(事務局) はじめに本日審議をいただく主旨と基金の運用状況について説明。

(議長) 質疑を求める。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、それぞれの事業の説明を求める。

全部で10事業あるため、まず、NO. 1「南アルプスユネスコエコパーク推進事業」からNO. 3「世界に誇る「水の山」北杜ブランド推進事業」まで各所管課から説明を求める。

(所管課) 3事業について説明。

(議長) 質疑を求める。

(委員) 南アルプスユネスコエコパーク推進事業について、平成30年度実績で理解度29%との説明があったが、どのように評価しているのか。また、その評価に対する原因や目標達成までの取組内容についての説明を求める。説明の中では、昨年度との相違点は、文化継承事業の説明員数が変わったとのことだが、それだけで良いのか、その点についても説明を求める。

(所管課) 理解度については低いと認識している。これを改善するに当たっては、今まで蓄積してきた知識を用いて情報発信することが重要だと考えている。その点において、本年度初めて実施した中学生の中山ハイキングは、授業において事前学習を行い、また当日地域連絡会の会員が説明を行うなど、地域を愛する心を育てるため事業を実施することができた。今後も理解度を上げていくためには、このような地道な事業を実施していくしかないと考えている。少しでも興味を持たれた方を、引き込んでいくような事業を行っていきたい。

(委員) 今はコロナ禍のため、理解度を上げることは現実的に難しいと思う。地道にやっていくしかないと思うが、現在はYouTubeなどデジタルツールがあるので、費用面などの課題はあるにせよ、市民に限らず広く市外の方にも知っていただく活動を行うことで、エコパークの価値を上げていくのではないかと思う。認知度や理解度の向上を目指すことは、全国的にも同様の傾向だと考えられるので、北杜市が先頭を切って行うことに価値が出るのではないかと思う。

(議長) 他に質問はあるか。

(委員) NO. 1の環境保全普及啓発事業において、種子落としマットの点検とあるが、これは継続事業か。

(所管課) はい。

(委員) どんな種子が持ち込まれているのかということ、どこかで情報発信したらどうかと思う。また、動植物生態系調査ではデータを蓄積しているということか。

(所管課) 委託事業者に調査業務を委託しているが、実際、調査自体は地域連絡会で行い、その支援を委託事業者が行うようにして、地域が関わる事業としている。

(委員) 蓄積されたデータについては、公開、または市政報告会等で発表してもらえればありがたい。次に、地域の魅力掘り起し事業の中山は、ヤマビルが多いので、駆除についても検討していただきたい。そのほか、甲武信ユネスコエコパーク推進事業のエリア内動植物生態系調査支援事業だが、環境調査において、子ども達が興味を示すものとしては、ホタルが一番だと思う。過去に北杜市内の小中学生にホタルの調査をしてもらい「ホタルマップ」を国の補助事業で作成したことがある。ホタルの調査をすることで、環境への興味を持ってもらうきっかけにもなるので付け加えていただければと思う。

(所管課) 御意見ありがとうございます。

(委員) 以前も同じ質問をさせていただいたが、NO. 1からNO. 3まで全体に跨るものとして、ユネスコエコパークを推進する地域では、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進が推奨されており、同じく推奨されているユネスコスクールについては、山梨県内は非常に少ない状況にあり、南アルプスユネスコエコパークでは芦安小学校があるが、北杜市内には1校もない。南アルプスと甲武信の2つのユネスコエコパークを有する北杜市として、ぜひユネスコスクールやESDを通して、学校教育とのリンクをもっと検討していただけないかと思っている。先ほど話があった理解度・認知度にもつながっていくものと思う。以前にも話をさせてもらったが、福島の只見町ではエコパークに登録されており、そのまままちづくりに活かされていて、エコパークと学校、地域が連動して、副読本を用いた学校教育が行われている事例もある。ぜひ2つのエコパークに属しているということ、北杜市として上手く活用してもらいたいと思う。事業の中にも教育や文化を取り上げられている事業があるが、認知度を上げていくためには、学校教育とのリンクは外せないのかなと思っている。北杜市としてぜひ検討していただければと思うが、可能性はあるか。

(所管課) 本年度初めて武川中学校との連携や、白州中学校では水生生物の調査も実施していることから、今後も地域連絡会の教育部会を中心に機会を増やすとともに教育面にも力をいれられればと考えている。

(委員) ぜひ単発の事業ではなく継続的な事業として展開できるようにすれば、素晴らしいと思う。

(委員) これは意見だが、NO. 3「水の山」北杜ブランド推進事業の費用対効果面でいえば、「水の山」魅力発掘・発信事業は、かなりの費用が掛かっていると認識している。過去数年間にわたり、いろんな形で行われており、それなりの成果があるものと認識するものの、これも5年経過し、同じコンテンツが続いているので、そろそろ新しい切り口のものが必要だと思う。本来、この事業は、環境や水といった自然環境に関する啓蒙や、まちの活性化を図る事業であると思う。その原点や主旨に立ち返って検討し、結果として継続もあるかもしれないが、ぜひ見直しをしていただきたい。

(所管課) 全体的な見直しとは言えないかもしれないが、本年度新型コロナウイルス感染症の影響で撮影できない部分を、来年度撮影するための経費が計上されているが、再来年度については、この分の経費が全額減額を見込んでいる。今後については、現在、映像からラジオにシフトをして「水の山」のPRをしていきたいと考えている。

(委員) 伝える手段は、コンテンツが決まってくれば決まる話なので、ラジオなのか、SNSなのか、そもそもこの事業では何を行うのか「水の山」プロジェクトを立ち上げた時の主旨を踏まえて考え直さないといけないと思う。正直、これをこのまま続けていくというのは厳しいのではないかと思う。

(議長) この事業も5年を経過したので、見直しをしていただけないかということだが、所管課ではよろしいか。

(所管課) わかりました。

(議長) 今、委員からの意見を所管課では組み入れて事業を行っていただければと思う。NO.1からNO.3までの事業について、異議はないか。

(委員) 異議なしで承認。

(議長) 続いて、NO.4「環境教育推進事業」から、NO.6「市有林整備事業」まで事務局の説明を求める。

(所管課) 3事業について説明。

(議長) 質疑を求める。

(委員) 小中学生環境学習プログラム体験事業と親子環境学習会の違いについて教えてもらいたい。

(所管課) 小中学生環境学習プログラム体験事業は、プログラム集を作り、市内の「わくわく教室」を対象に事業を実施している。一方、親子環境学習会は、夏休み等の期間に親子で参加できる学習会を開催している。

(委員) NO.5の里山整備事業であるが、こちらは補助金の所要額が大変大きい。例えば水源涵養については、この事業がどう貢献しているのか、何か調査をしているのか。どのように評価されているのか。

(所管課) 現在示している指標は市の環境基本計画の中で位置付けている指標であるが、林野庁においても、間伐による森林が有する多面的な機能を回復することが重要とされている。ご指摘のアウトプットについては明確にはできないが、本市はこの独自の事業により長年にわたり森林の荒廃を防いできており、その中で、さまざまな機能が維持・回復されていると考えている。

(委員) 金額的にも大きな事業であると理解している。これが膨らむようであれば、効果について知りたいと思っている。

(議長) 所管課の方で対応できれば示していただければと思う。

(所管課) わかりました。

(委員) 表現上の確認になるが、「子ども環境教育フェスタ」とあるが、これまでは「子ども環境フェスタ」であったと思う。今後は環境教育を強調していくという理解で良いか。

(所管課) はい。

(議長) 今、委員からの意見を所管課では組み入れて事業を行っていただければと思う。NO.4からNO.6までの事業について、異議はないか。

(委員) 異議なしで承認。

(議長) 続いて、NO.7「地産地消商品棚設置事業」から、NO.10「市民提案型環境保全事業補助金」まで事務局の説明を求める。

(所管課) 4事業について説明。

(議長) 質疑を求める。

(委員) NO.9のSDGs普及推進事業について、各ステークホルダーが対象ということだが、企業なら企業、市民なら市民というように、各セグメントによって伝えるもの、知っておくべきものが異なると思うのだが、もう少しシャープにした方が良いのではないかと思うがいかがか。

(所管課) 確かに、各セグメントにより知っておくべきものは異なると思うが、現時点、この事業で考えているものは、基本的なものであり、今後推進計画を策定した際には、ターゲットごとに部会などにおいて、研修会等を催すなど、各セグメントに合った情報が提供できればと考えている。

(委員) 我々もそうだが、勘違いしやすいのがCO2何%というと、企業内での削減を考えてしまうが、本来はこのSDGsは地域創生のキーとなるものだと思うが、そうすると企業は抜けてしまうことが多いので、そういうところを自治体としてバインドしていくような役割であってほしいと思う。企業同士目的が合致すれば良いが、実際は得意分野が異なるため、目的が合わないの、その辺りのコーディネートが必要だと思う。最近だと、その分野での専門のコンサルあると聞くが、このコーディネートについて、自治体で担っていただけると非常に良い話ではないかと思う。

(議長) SDGsが深まっていく中で、第2段階、第3段階の取組としてお願いしたいと思う。

(委員) NO.10の市民提案型環境保全事業補助金について、先ほど説明だと本年度の総額は約400万円で、来年度は700万円とあるが、これほど増額する理由は何か。

(所管課) 本年度の予算は950万円であったが、来年度については、過去数年間の補助採択状況を勘案して、予算として必要な700万円としたところである。

(議長) その他にNO.7からNO.10までの事業について、異議はないか。

(委員) 異議なしで承認。

(議長) 続いて、2号議案の「その他」について、事務局から説明を求める。

(事務局) 次回委員会のスケジュールについて説明。

4. 閉会

午後3時30分終了